



山室筋
の
かたがひ

ピースを在庫・販売した明治23(1890)年には、三木佐助商店楽器部が日本で初めて音楽講習会を実施。ピアノ、オルガン、バイオリンの生徒105人が参加したという。

一方、楽器販売と合わせて音楽書籍の出版にも着手し、明治33(1900)年には「鉄道唱歌」

戦後、楽器販売充実を図り昭和31(1956)年に三木楽器に改組し、心斎橋店をはじめ府内に営業拠点を拡大、音楽文

大阪文化の向上と関西復権

88)年に、初めて楽器が大ヒットした。鉄道、電話の開通で東京―大阪がぐっと近くなった。大正に入ると、ピアノが売れ出して音楽愛好家も2000人になり、大正4(1915)年には大阪音楽学校(現大阪音楽大学)も設立された。

大正14(1925)年、創業100周年を記念して三木楽器は本社を新築し、「三木ホール」を新設した。その前年には新進作曲家・山田耕柞先生

のもとに「西洋音楽講習会」を開設し、「コールユーブンゲン」の翻訳権を取得して三木ホールはフル回転。なにわ混声合唱団の指導指揮も、このホールで行われた。昭和4(1929)年には、ミキピアノ、ミキオルガンの製造・販売も手がけ、音楽教科書の販売を全国ネットに乗せた。

音楽で大阪の文化を向上させようと120年間、ピアノ、オルガンなどの普及に努めてきた三木楽器の7代目・三木佐知彦社長が、最近「音楽が地球を救うだろう」と言い出した。今回は本社の「開成館」を訪ねた。4階建てで、茶褐色のタイルに覆われ、窓の間は植物レリーフで装飾。店内には何台ものグランドピアノが陳列され、右奥には山田耕柞先生も上り下りされたと思われるモダンな階段が2階に通じる。正面には楽譜の



た。右端には国の登録文化財の表示があった。右端には国の登録文化財の表示があった。右端には国の登録文化財の表示があった。